

令和8年盛岡市二十歳のつどい開催結果

◇ 概要

令和8年1月11日（日）14時から、盛岡タカヤアリーナを会場に開催しました。当日は、対象者 1,980人、その御家族 358人が出席しています。

二十歳の方によって組織された盛岡市二十歳のつどい実行委員9名をはじめ、市内社会教育関係団体や多数のボランティアの皆様による協力を得て、運営されました。

◇ 記念式典（令和8年1月11日(日)14時～14時30分）

【司会：盛岡市二十歳のつどい実行委員 平沼 諒子 三船 優月】

- 1 開式のことば
盛岡市二十歳のつどい実行委員長 加美山 結葉
- 2 国歌斉唱
盛岡市民歌斉唱
- 3 二十歳を祝うことば
盛岡市長 内館 茂
- 4 励ましのことば
盛岡市議会議長 櫻 裕子
- 5 二十歳の決意
二十歳代表 佐々木 椿 藤原 芽生
- 6 閉式のことば
盛岡市教育委員会教育長 多田 英史

○ 二十歳を祝う言葉

二十歳を祝して 盛岡市長 内館 茂

二十歳の節目を迎えられた皆さん、本日は誠におめでとうございます。

私も38年前、皆さんと同じように、この盛岡で二十歳の「晴れの日」を迎えました。今は、一社会人として、そして盛岡市長として、市民の皆さんと共に、「より優しく、より強い盛岡」を実現するために、日々、市政に取り組んでおります。

本日ここにお集まりの皆さんは、それぞれ異なる道を歩まれています。職業につき社会で活躍している方、学業に励んでいる方、様々なかたちで社会とつながりを持つ皆さんの姿を拝見し、とても心強く感じます。

これから皆さんが向き合う未来は、これまで誰もが経験したことのない新しい時代であります。

人の心と心のつながりは、ときに弱くはかなく感じることもあるかもしれませんが。

しかしながら、そこに、愛や信ずる心があるとき、その結びつきは、この世の何より強くかけがえのないものとなります。私は、50歳を過ぎた今も、生きることは素晴らしいことなんだと、心から信じ続けています。

ただ一度の人生、夢や未来に向けてこれからきっとたくさんのワクワクすることが待ち受けています。しかしながら、楽しいことだけではなく、時には、悲しみや苦しみ、ひとしれず涙を流すこともあるかもしれません。

だけれども、「涙が多ければ多いほど、悲しみが深ければ深いほど、その先の幸せはより大きくなるものだ」と私は信じています。

盛岡の先人であり、大正時代に平民宰相として活躍した原敬は、「宝積（ほうじゃく）」を座右の銘としていました。「宝積」とは、「人に尽くして見返りを求めないこと」。その生き方は、清廉潔白で、他者を思いやりながら尽力することの大切さを私たちに教えてくれます。皆さんも、この精神を胸に刻み、地域社会・国際社会で信頼され、活躍されることを願っています。

本日まで深い愛情で育ててこられました保護者の皆様。心よりお祝いを申し上げます。

ご多用の中、ご臨席いただきましたご来賓の皆様、開催に尽力をいただきました多くのボランティアの皆様。準備設営いただきました皆様。深く感謝申し上げます。

一人一人の力は小さくても、集まれば大きな力になっていくんだと、そう信じています。皆さんと共に、明るく元気な、盛岡そして日本を創っていきましょう。

本日は、誠におめでとうございます。

○ 二十歳の決意

二十歳の決意 二十歳代表 佐々木 椿 藤原 芽生

令和8年1月11日、私たちは二十歳のつどいの日を迎えました。はじめに、このような式典を開催していただけることに、心から感謝申し上げます。また、内館市長をはじめ、来賓の皆様から、温かい激励の言葉を賜りましたことに深くお礼申し上げます。

これまでの二十年間を振り返ると、家族や友人、恩師の皆様など多くの方々に見守られ、支えられ、今日を迎えることができていることを実感します。二十歳という節目を迎え、お世話になった方々に対して、なかなか伝えることができない、日ごろの感謝の言葉を伝える一日としたいです。そして、私たち一人一人が、自分自身の成長と、周りを支えていくことの決意を新たにして、これからの人生を歩んでいきたいと思えます。

さて、今年の盛岡市二十歳のつどいのテーマは、これから大切にしていきたい二つの決意を込めて「鼓動」としました。

盛岡市を象徴する伝統文化の一つに「さんさ踊り」があります。太鼓から響く鼓動のほか、演舞の動きや、見ている人たちの胸の高鳴りなど、多くの鼓動が結集して「さんさ踊り」の長い歴史は続いてきました。これからは、私たちが、社会人として、さんさ踊りをはじめとする伝統文化や歴史、盛岡の街並みなど、盛岡の“良さ”を引き継ぎ、発展させて、次の世代につないでいくという決意を込めています。また、私たち一人一人には、生まれた瞬間から今日まで動き続けている「命」の鼓動があります。私たちは五歳の頃に東日本大震災を経験しました。実際の体験、あるいは学びの中で、命あることが当たり前では無いこと、助け合い、支え合いの中で、一人一人の命が繋がっていることを実感した人もたくさんいると思えます。また、SNSをはじめとするインターネットの普及が進む世界の中では、遠くの誰かに声を届け、励ますことができる一方で、簡単に相手を傷つけてしまうこともあります。だからこそ、周りにいる人だけでなく、向こう側にいる見えない相手への思いやりを忘れないようにしたいです。二十歳を迎えるということは、自分の命を大切に、他人の命を尊重する責任を持つということだと思えます。これから出会う多くの人とのつながりを大切に、感謝と優しさ、思いやりを持って、人生を歩んでいくことができる大人でありたい、というのが、テーマに込めた二つ目の決意です。

時には困難にぶつかり、挫折を経験することもあるかと思いますが、私たちは決して一人ではありません。お世話になった恩師をはじめ、今日まで共に過ごしてきた家族や友人、これから出会う新しい仲間や同僚がいます。人とのつながり、そして、これまで培ってきた知識や経験を糧に、自信をもって進んでいきましょう。

最後になりますが、これまで支えてくれた、たくさんの方々への感謝を忘れず、この盛岡市で生まれ育ったという誇りを胸に、それぞれの夢や目標の実現、そして、希望に満ち溢れた未来、盛岡市を創っていけるよう、より一層精進していくことを誓い、二十歳の決意といたします。

◇ アトラクション（14時30分～15時）

二十歳のつどい実行委員会により企画したプログラム

実行委員によって進行しました。社会参加活動の報告のほか、さんさ踊り団体「さんさ好み」様に二十歳の参加者にお祝いの気持ちを込めて、さんさ踊り2～4番と、社会参加活動報告でも取り上げた5番「吉希翔」を披露していただきました。最後は、二十歳の方々から集めた20年間の振り返る写真を楽曲と併せて編集し、エンドロールとして流しました。

◇ しおり

テーマ『鼓動』のもと、実行委員会が企画及び制作したしおりを二十歳のつどい参加者全員に配布しました。

【掲載内容】

- ・ 実行委員長挨拶
- ・ 式典次第
- ・ 盛岡市民歌



◇ WEB記念誌

しおりに掲載しきれない内容を、盛岡市ホームページ内に掲載しました。

【掲載内容】

- ・ 市長お祝いのことば
- ・ 二十歳の決意
- ・ 社会参加活動報告
- ・ 市内中学校からのお祝いメッセージ
- ・ 啓発リーフレット

◇ 盛岡市二十歳のつどい実行委員会

令和8年盛岡市二十歳のつどい実行委員会は、二十歳の9人（学生9人、うち2人は19歳）で活動しました。



令和8年盛岡市二十歳のつどい実行委員会のメンバー

実行委員会が行った主な活動内容は、次のとおりです。

○ **テーマの決定「鼓動」**

主に2つの決意を込めて、テーマを設定しました。

1つは、さんさ踊りの太鼓から連想する鼓動。太鼓のほか、演舞の動きや見ている人たちの胸の高鳴りなど、多くの鼓動が結集して作り出される「盛岡さんさ踊り」は、盛岡を代表する伝統の1つであり、社会人となって、伝統や文化、街並みなど、盛岡の“良さ”を引き継ぎ、発展させて、後世につないでいくという決意を込めました。

2つ目は、命の鼓動。東日本大震災を直接体験し、後世へ伝えていくことができる最後の世代という自覚と、周囲の方々に支えられて二十歳の節目を迎えられたことへの感謝の気持ちから、自分と他人の命の大切さを改めて認識し、今しかない時間を懸命に生きていくという決意を込めました。

○ **実行委員会議・広報活動**

実行委員会議では、二十歳のつどい当日の司会や代表挨拶の練習の他、アトラクション内容の企画、来場者全員に配布するしおりの作成等について話し合いや作業を重ね、当日までの準備を進めてきました。

また、二十歳のつどい当日のお知らせや実行委員会の活動内容の周知を目的に、ラジオ出演や市広報、SNSなどで広報活動を行いました。

○ **社会参加活動**

「道の駅もりおか渋民たみっと」、「さんさ踊り5番吉希翔」及び「さんさ踊り団体“さんさ好み”」について取材や体験を行いました。事前調査を踏まえて施設や団体の代表者にインタビューを行い、社会人としての姿勢や盛岡の魅力についての理解を深めました。

◇ **YouTubeでのオンデマンド配信**

式典およびアトラクションの様子は市公式YouTubeにアップしています。